



第1回ワークショップが開催されました

現地確認⇒ プロポーザル案の説明⇒ 計画への自由意見交換

4月17日に、隠岐ユネスコ世界ジオパーク中核・拠点施設整備計画の第1回ワークショップが開催されました。ワークショップに参加されたのは、経済団体、観光団体、教育機関、交通機関などを代表する22名の方々。町、県から計画の前提条件や、周辺まちづくりの考え方の説明、2月の設計プロポーザルによって選定された出雲市のナック建築設計事務所の東本氏による設計の考え方を説明の後、計画予定地であるフェリーターミナルの隣接地、機能が移転する隠岐ポートプラザ内の隠岐の島町観光協会、隠岐自然館の現在の状況を確認しました。ディスカッションの会場となった隠岐支庁内の会議室では、グループに分かれてディスカッションを行い、よりよい施設にしていきたいためにハード面、ソフト面での課題について熱心に議論を行いました。議論の内容は、2、3ページに要約が掲載されていますが、このワークショップでの意見や施設に入居する当事者団体との協議を重ねてよりよい計画にしていきたいと考えています。



グループディスカッションの様子



フェリーターミナルの状況を確認



現在の観光案内所の状況を確認



隠岐自然館での現地の状況を確認

● ジオパーク拠点施設について

<計画、今後のあり方について>

◆建物の問題

- ・港側の壁面が開放感なく圧迫感がある
- ・正面ガラスをどうにか工夫した方がいい
- ・2階利用者用のトイレは？
- ・メンテナンスが安価な施設・仕組

◆フェリーターミナルとの接続

- ・フェリーターミナルとの接続は、雨風両方を防げるよう
- ・フェリーターミナルから新拠点への案内板が必要

◆人の流れ

- ・拠点施設1階2階ともターミナルとの接続に無理がある
- ・夏場、拠点施設からターミナル2階への動線は、現設計では無理 → 専用通路をつくる
- ・2階通路からの移動が出来るか？
- ・動線がづらい。拠点施設に人が行けない？

◆駐車場、車両動線

- ・駐車場が使いにくい、今後どうなるか？
- ・レインボー乗降客とロータリー内の車が交差する問題

◆ソフト面の課題

- ・観光協会のパワーアップ!! ハードよりソフト
- ・地域の歴史、文化をジオの視点に入れる
- ・拠点施設は賑わいが必要。人が寄るかな？

◆その他

- ・ピーク時に2F乗船ルートと降客がバッティングするのではないかな？
- ・無料のジオスペースの対応を誰がするか

● 観光案内所（観光協会）

<現在の状況>

- ・場所とサービスがわかりづらい
- ・待合スペースが狭い
- ・もう少し広いスペースがあるといい



<計画、今後のあり方について>

◆休憩スペース、荷物預かり

- ・開放的な休憩所に（観光客、地元の人）
- ・スーツケースなどが預けられる場所がほしい
- ・団体・ツアー客向けスペースの確保
- ・2階を休める場所に（カフェ等）

◆バス停、かっぱ遊覧船との関係

- ・体験（かっぱ遊覧、まちあるき）の集合場所は？
- ・空港連絡バスのバス停の位置は？

- ・バス停留所から離れてしまうが

◆窓口業務とデスクワーク

- ・案内窓口事務所スペースの分離、メリハリ
- ・事務所スペースの確保

◆その他

- ・観光協会は1階と2階のどちらに？
- ・一畑トラベル、旅行会社、隠岐の島町観光協会是一緒の方が良いのでは？
- ・観光案内、ガイドのできる職員を町・協会で雇用
- ・観光客のニーズ、ジオパークを求めてくるのか？

● 隠岐自然館

<現在の状況>

- ・見学する動線がわからない
- ・自然館内の順路表示が必要 つながりイメージ
- ・後設でのジオ展示なので、統一感やつながりが無い
- ・照明が暗い

<計画、今後のあり方について>

◆展示内容・方法

- ・まず最初に施設に入ってもらい工夫が必要
- ・現状のものを移転できればよい
- ・現展示量を展示しきれるか？
- ・特徴を出した展示に、人の営みが分かる展示に
- ・マチカネワニの3D展示（VR活用）
- ・施設の中に体験スペースをつくる
- ・ハンズオン展示、大量のつみ木等

◆説明、対応

- ・ジオパークエリアの説明は、だれがするのか？
- ・隠岐自然館に学芸員はいるのか？
- ・お客様が多い時の対応はどうなるのか？

◆来館者を増やすために

- ・キッズスペース、ママユースを高めると賑いを生む
- ・デジタルサイネージ導入（フェリー降りてから新施設）
- ・自然館と観光案内所が一体感のあるつくりが良い

● フェリーターミナル

<現在の状況>

- ・動線が悪い。狭く横長すぎて使いにくい
- ・全体的に暗い、圧迫感あり
- ・ターミナルの外が暗い
- ・フェリーターミナルの2階は工夫がない

＜計画、今後のあり方について＞

◆ターミナルのあり方

- ・ターミナル+拠点施設が観光の出発点となる計画に
- ・大きな出入口、人のターミナルに
- ・滞留スペースから目的とする場所が見わたせる
- ・飲食スペースを確保する、ストップ&誘導

◆動線、誘導、サイン

- ・ターミナル2階から拠点施設への動線をどうするか
- ・ギャングウェイ（旅客用人道橋）からの誘導がカギ
- ・見やすい案内看板があるとよい、サイン計画が必要
- ・屋根や外壁を使ってどんな施設か説明

◆ハード面の改善

- ・西側階段の利用
- ・2階のブリッジは間口を広くする
- ・明るく、清潔な、使いやすい授乳室
- ・明るい照明（LED 導入）
- ・外壁の塗装やり直し



●港周辺整備・まちづくり・その他

＜現在の状況＞

- ・港全体の設計図が欲しい（トイレ・店などの配置）
- ・どこに何の施設があるか分からない。サインが欲しい
- ・遊覧船の発着所は、港付近がよい（レインボーの横など）
- ・公共トイレが必要
- ・島内送迎車の駐車場が必要
- ・ターミナル周辺の車の整理が必要
- ・観光客の利便性と住民の利便性の折り合い

＜計画、今後のあり方について＞

◆周辺の道路整備

- ・フェリーターミナル前の道路にバス、車、タクシーを利用できるスペースはあるのか
- ・ターミナル背後の信号付近のロータリー他
- ・道路のつけ替えや拡張等の整備

◆安全対策

- ・拠点施設 ⇄ 高速船乗場の安全確保（たとえば発着時間によって交通規制）

◆駐車・駐輪場

- ・駐車場の確保、できれば近場・短時間無料の立駐整備？
- ・サンロード天神立体駐車場の利用計画
- ・ターミナルの港と反対側を駐車場にする。
- ・駐輪場の確保

◆路線バス

- ・路線バスは停められるか？路線バスの経路をどうするか
- ・路線バスをターミナルへ、バスダイヤ改正

◆ポートプラザ

- ・ポートプラザ2階のフロアに、あんき市場を移転させる

◆にぎわい創出・商店街・宿泊

- ・商店街の再生と人材の確保
- ・食事処・飲食処・カフェの確保と人材確保
- ・港周辺に賑わいが無い、港前を再開発する
- ・芸能スペースの確保
- ・宿泊キャパの確保、宿泊施設サービスの充実

◆フェリーの中から

- ・フェリーの中で、フェリー乗り場 から ジオパークエリアに行くような仕掛けをする。チラシなどを設置
- ・旅はフェリーから始まっている、楽しい空間を演出

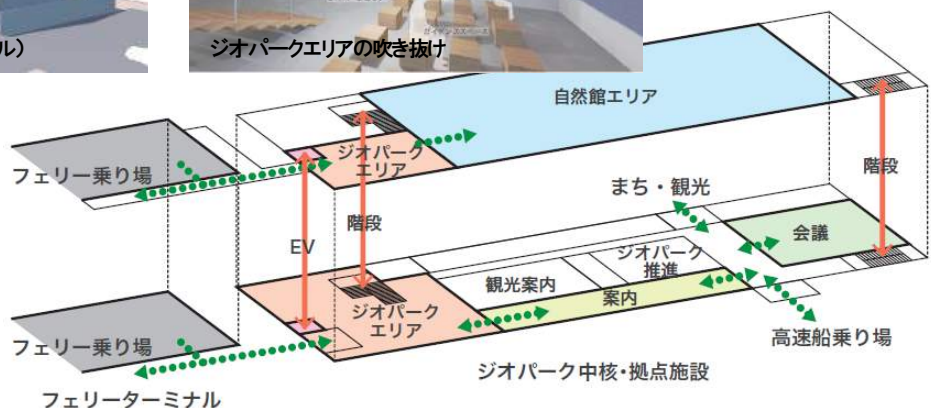


プロポーザル設計案
(設計者選定時の案)



2階

1階



隠岐世界ジオパーク中核・拠点施設計画の概要

隠岐世界ジオパークの中核・拠点施設としてフェリーターミナルに隣接して新たな施設を隠岐の島町が事業主体となって整備。2階建て約1,500平米。隠岐ポートプラザ内の隠岐自然館の機能を新施設に移転させるとともに、ジオパークをより分かりやすく紹介するエリアを設置します。また隠岐ポートプラザ内の隠岐の島町観光協会、隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会を新施設に移設し、隠岐の島町の観光とジオパークを一体的で分かりやすく紹介する総合的な隠岐の観光拠点になることが期待されています。平成31年度初頭に工事を開始し、平成32年春に開業の予定です。

設計者＝ナック建築事務所 自己紹介

このたび、設計プロポーザルによって選定していただいたナック建築事務所です。出雲市内に事務所がありますが、これまでも隠岐では様々な施設の設計に携わっています。隠岐ユネスコ世界ジオパーク中核・拠点施設は隠岐の島を訪れる人をお迎えし、隠岐の島を世界につなぐ場になります。隠岐の大地・生態系・人の営みのつながり、その魅力を紹介するとともに、ジオパーク活動を通して島の暮らしにもつながり、島みなさんが気軽に訪れ、愛される建物を目指します。なお、設計チームとして展示設計には北海道地図株式会社、ワークショップの企画運営にはNPO法人プロジェクトゆうあいが携わります。私たちはこれからの隠岐の未来を作っていく重要拠点に関わることができる誇りと責任感を持って設計に取り組んでまいります。



代表取締役 亀谷清



代表取締役 東本貴弘

先進地視察の実施報告～伊豆、三重へ～

ゴールデンウィークのさなか、施設計画の参考となるよう、行政メンバー、設計メンバーと合同で先進地視察に行っていました。伊豆の修善寺にあります伊豆半島ジオパークミュージアム「ジオリア」は、隠岐の施設とほぼ同規模で、とても多くの観光客でにぎわっていました。展示空間の中央には「プロジェクションマッピング」という展示がありますが、これは立体地図の上にプロジェクターで様々な情報を見せることができるもので、隠岐の新施設への導入について検討をしたいと考えています。次に向かったのは、三重県総合博物館です。規模の違いはありますが、展示の方法については、様々なヒントがありました。本施設ではマチカネワニの骨格標本を展示する予定ですが、ダイナミックに見せる演出など参考になりました。また視覚障がいの方にも楽しめるような工夫がされているなど、バリアフリーの視点でも様々な気づきがありました。



伊豆ジオリア



三重総合博物館

第2回ワークショップのご案内／今後の予定

6月21日(木) 14時30分～17時 会場:隠岐支庁会議室

テーマ:設計一次案をもとに議論をしよう

7月末:第3回ワークショップ:最終設計案をもとに議論しよう

9月:第4回ワークショップ:ポートプラザ内の隠岐自然館と観光協会跡地の利用について検討する
(8月:基本設計の終了 10月:実施設計の終了)